

<アクションプラン 1>

重点項目	学習指導
重点課題	基礎・基本の確実な定着
現 状	<p>令和5年度の全国学力学習状況調査及び業者学力調査等の結果から、知識及び技能の確実な習得とそれらを活用し、思考・判断・表現する力の育成に課題があることが明らかになった。さらに、自主的な家庭学習への取組にも課題が見られた。</p> <p>今年度は、学ぶことに興味・関心をもち、粘り強く取り組む子供の育成を目指し、子供たちの主体的な学びを通じた、確かな学力の向上を図る。</p> <p>基礎・基本の確実な定着に向けて、学習意欲の向上を図り、子供が学び合う喜びを味わうことができる授業改善を行う。また、ICT活用による個別最適な学びを進め、「できる」「分かる」を実感しながら意欲的に学習に取り組むことができるようにしたい。</p>
達成目標	<p>児童アンケートの「授業の中で『分かった』『できた』と思うことがある」「学習することは楽しいと思う」において、自己評価がB評価以上の児童が80%以上になるようにする。</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○「あさひスタダート」を基に、学びを支える学習規律の徹底に努める。また、「あさひ学び合いスタイル」を基に、子供たちの学び合いを大切にしたい授業改善を図る。 ○朝の活動において「10分間学習」に取り組む。曜日ごとに学習活動を決め、「朝の読書」「ドリルタイム」「読み聞かせ」「トークタイム」に取り組む。ドリルタイムでは、漢字、計算等の基礎、基本を反復し定着を図る。 ○ICT活用による個別最適な学びや「問題発見・解決能力」を育成する場面を設定する。 ○小中学校で日を合わせて取り組んでいる「進んで学ぶさみっ子家庭学習カードの取組」において、引き続き児童が自分の家庭学習の実態から自身を達成できそうな目当てをたて達成したり(自己調整)、振り返りを次の家庭学習に生かしたり(PDCAサイクル)できるようにする。家庭学習の自主学習では、ICTを活用し、AI学習ドリル(キュビナ)を主体的に行う。

<アクションプラン 2>

重点項目	生徒指導
重点課題	思いやりの心をもち、自分から進んで挨拶をする子供の育成
現 状	<p>朝日町では、学校、PTA、地域が連携して挨拶運動の推進に積極的に取り組んできた。(また、各校でも委員会活動を中心に挨拶運動や思いやりのある言動を推進する活動を行ってきた。)その結果、子供たちは挨拶や思いやりのある言動の大切さを意識することができるようになってきている。しかし、自ら進んで誰にでも挨拶することや分け隔てなく温かい言動をすることについては、粘り強く指導していく必要がある。</p> <p>子供たちの相互交流による人間関係づくりには、挨拶は欠かせないものであり、挨拶を通して温かい人間関係づくりを推進し、思いやりの心を育てたい。</p>
達成目標	子供及び保護者の評価…A、B評価の80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会が中心となって、学校の特色を生かした挨拶運動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を広めるための方策を各学級で話し合う。 ・運営委員会が中心となり、全校の子供たちが参加することができる活動を企画する。 ・挨拶に関わる標語を作成し、挨拶への意識を高める。

	<p>○子供が相互に好ましい人間関係を育むことができるよう、教師と児童の信頼関係及び児童相互の関係づくりを中心に考えた触れ合いの場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温かい人間関係づくりを行うことができるような学級活動や縦割り班活動を定期的に設ける。 ・言葉遣いについて考えたり、温かい言葉遣いを行ったりすることで、よりよい関わりができるようにする。
--	---

<アクションプラン 3>

重点項目	健康・安全指導
重点課題	基本的な生活習慣の定着
現 状	<p>令和5年度「とやまゲンキッズ作戦」の調査から、就寝時刻の遅さや睡眠の質に課題があることが明らかになった。また、令和5年度アクションプランの児童及び保護者の自己評価では、高学年になるにつれ、就寝・起床時刻が遅くなる傾向があることやメディアルールの遵守の達成感に関して、児童・保護者間に大きな差があることが分かった。これらのことから、メディアの使用に歯止めがきかなくなり、生活リズムが不規則になっていることが考えられる。</p> <p>そこで、今年度は、メディア利用と生活習慣の関連について児童自身が考える場を設け、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣の定着を図りたい。</p>
達成目標	児童及び保護者の自己評価で、A、B評価の合計を各項目70%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・保護者でメディアルールを共通理解することができるように家庭での貼り紙配付を行うなど、呼びかけを工夫する。 ○学校だよりや保健だより、給食だより、ホームページ等で、健康に関することを定期的に発信する。 ○保健委員会や給食委員会の活動を通して、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）を確立することで得られる利点を全校児童に発信する。 ○とやまゲンキッズ作戦の健康調査で、自分の生活を振り返る機会を設ける。 ○学習参観や学校保健委員会で、メディアとの付き合い方を取り上げて、基本的な生活習慣の定着を図る。 ○オンラインによる健康観察を必要時に行うことができるように準備し、子供たちが自身の心身の健康について意識を高める。